

高校生に負けた 監督 柴田昌平

「聞く」ということを通して、高校生たちは祖父母世代の人生を淡々と照らしてゆく。生きる面白さや厳しさに直面し戸惑いながらも、問い続ける。「60年以上も、好きだから続けてきたのですか?」「仕事の良いところは何か?」そんな青臭いほどの真っ直ぐさが、名人の言葉を引き出した。高校生の不器用さに自分自身が重なり、私は撮影にのめりこんで行った。

「生きるというのは好き嫌いじゃない」名人が口にした言葉を、高校生たちは束縛ではなく、自分が出来る役割を果たすという意味で受け入れたようだった。遠い世代が出会うことで生まれたこの感覚。ここに人間の生きる力や社会のつながりを魅らせるためのほのかな希望を感じた。

■柴田昌平プロフィール 初監督作品「ひめゆり」(07)で、キネマ旬報ベストテン(文化映画)1位など八冠に輝く。1963年東京生まれ。NHK、民族文化映像研究所を経て、現在は映像制作会社プロダクション・エイシア代表。NHKスペシャル「新シルクロード第1集・楼蘭4千年の眠り」(米・エミー賞ノミネート) NHKスペシャル「世界里山紀行・フィンランド・森・妖精との対話」(独・ワールドメディアフェスティバル銀賞受賞)など

こういうひとたちがいるから、
この世界は希望をもって生きるに値する。
とっておもしろい映画です!

三浦しをんさん(作家)

高校生は森の賢者から
生き続けるための万能の武器を授かった。
その力に今は気づいていないかもしれない。
しかしいつか偉大な宝物だったことを知るだろう。

阿川佐和子さん(文筆家)

映像がきれいで素晴らしい。聞き書きをする若者の変化に感動。
忘れていたものを振り返ることを思い出しました。
深く静かな映画。心にしみいるとは、こういうことか。
中学生の息子に一日も早く見せたい。

富沢泰夫さん(会社員)

中山直人さん(会社員)



何か、今、
世界が変わる時期に
来ている気がする...

製作・配給：プロダクション・エイシア 協力：第7回「森の聞き書き甲子園」実行委員会 出演：長谷川力雄・椎葉クニ子・小林亀清・杉本亮・大浦栄二・中山きくの、河合和香・井村健人 他 監督：柴田昌平 撮影：那倉幸一 音楽：Rajaton アニメ制作：池田早紀 録音：門倉徹 映像技術：北澤孝司 音効：鈴木利之 訳詩：上山美保子 題字：財前謙 ポスターデザイン：市川千鶴子 プロデューサー：大兼久由美・小泉修吉 文部科学省選定(青年向き・成人向き)

m o r i k i k i

映画「森聞き」公式HP <http://www.asia-documentary.com/morikiki/>

お問合せ 「森聞き」上映事務局(プロダクション・エイシア内) TEL: 042-497-6975 FAX: 042-497-6976 MAIL: morikiki@asia-documentary.com

上映情報を
メール配信します

各地で行われる上映会の情報をニュースレター(不定期)でお届けします。
ご希望の方は、事務局メールアドレスに登録内容をお知らせください。
1)お名前 2)メールアドレス 3)都道府県 4)年齢

全国各地での自主上映団体を募集しています
お問合せは、上記「森聞き」上映事務局まで

2011年 春より全国順次公開

東京 3月~

ポレポレ東中野

TEL: 03-3371-0088
<http://www.mmjp.or.jp/pole2>

鹿児島 3月予定

ガーデンズシネマ

TEL: 099-222-8746
<http://www.kagocine.net>

名古屋 春予定

シネマスコール

TEL: 052-452-6036
<http://www.cinemaskhole.co.jp>

大阪 初夏予定

第七藝術劇場

TEL: 06-6302-2073
<http://www.nanagei.com>



フィンランド
オウル国際青少年映画祭
正式招待

『ひめゆり』
柴田昌平監督第2作

山の世界つて
宇宙人だな

m o r i k i k i

聞

長編ドキュメンタリー映画

製作・配給：プロダクション・エイシア 助成：文化芸術振興費補助金
2010年/日本/カラー/125分/ブルーレイ・DVCAM・DVD/16:9

小学校3年生から焼き畑を続けてきた
85歳の椎葉クニ子ばあちゃん。
「焼き畑のどこが好きですか？」
きくの(15)の何げない質問にはあちゃんが語気を荒げる。
「好きっちゃうことはないけん。ばあちゃんたちの一生の仕事だから。
山があるから、そして種を切らさんためにしていくとよ。
好きでやるとるとじゃないですよ」
そして、戸惑うきくのに優しくさす。
「みんなそうだからね。
植物、動物はすべて、生きて、子孫残すために世渡りをすつと。
何百年でも、何千年でも、自然とね」

耳をすます 1

「まるで2次元の世界にいるようだ」
東京で暮らす和香(18)にとっては
「絵の中の空想の世界」だった茅葺民家。
茅ぶき名人の小林亀清さん(79)は、
和香を急峻な斜面に連れて行く。
開墾して茅を植えて育てた茅場だ。
「平坦な土地ではカヤは育たない、
険しい斜面ほど良いカヤが育つ・・・」

耳をすます 2

世代を超えた出会いは、
まるで「大きな木」と「小さな木」の対話のようにも見える。
通常はまったく異なる世界に生きる
高校生と山村暮らしのお年寄り。
そんな彼らを山が引き合わせた。
これはごくシンプルな物語、
人生の意味を探る無限の旅だ。



綱一本で杉の大木に上り、良質の種を採集する76歳の杉本充さん。
「おっちゃんの仕事は、250年、いや300年先の子孫たちの時代に、
この森と同じように豊かな森を残すことだった。
今の時代には、もう需要のうなってしまうた」
これが最後の木登りとなった。
ひとつの職業が途絶える場で、健人(17)は言葉を失った。

耳をすます 3

「伝説の木こり」とも呼ばれる
北海道の知られざる名人、長谷川力雄さん。
死の危険と隣り合わせの雪国の木こりたちの
喜びと悲しみを語る。
「おれは84だで。だども頭の中はきれいなもんだ。
おはんもな、目標持ってよ、元気にやればいいせ。
何か行き詰ったときがあったら、もう一回来ればいいせ」
無口な栄二(17)は、卒業後林業に就くことを決めた。

耳をすます 4



ストーリー

この映画は、「森の名人」と呼ばれる人たちの人生と技を聞き書きした
高校生4人を追った作品です。
日本のごく一般的な若者たちが抱える生き難さや未来への不安を、
日本が近代化の中でもっとも打ち捨ててきた山村生活の老人たちとの出会いを通して、
乗り越えようとして行きます。
日本の中のさまざまな断絶——都市と農村、伝統的な暮らしと現代化された暮らし、
世代と世代——そうした断絶を埋め合わせることの可能性を、
詩的なスケッチで見つめました。

m o r i k i k i

森の“聞き書き甲子園”

公式HP <http://www.foxfire-japan.com/>

「森の“聞き書き甲子園”」は、日本全国の高校生が、「森の名手・名人」を訪ね、知恵や技
術、人生を「聞き書き」し、記録する活動。「森の名手・名人」は地域からの推薦を受け(財)
国土緑化機構が毎年100人ずつ選定。高校生も全国から応募し、毎年100人が選ばれる。
2002年から始まり、2010年までに900組の名人と高校生が出会い、「聞き書き」の作品が生
まれている。2010年からは、海や川の名人を「聞き書き」する「海・川の“聞き書き甲子園”」
も同時開催している。

【お問合せ】NPO法人共存の森ネットワーク 事務局長：吉野奈保子
東京都世田谷区太子堂5-15-3 R-rooms三軒茶屋1-A
TEL: 03-6450-9563 FAX: 03-6450-9583 MAIL: mori@kyouzou.org

◎主催 林野庁、文部科学省、社団法人国土緑化推進機構、NPO法人共存の森ネットワーク
◎協賛企業 「聞き書き甲子園」の活動は、企業からの協賛金によって運営されています。
特別支援：株式会社ファミリーマート 協賛・協力：富士フイルムホールディングス株式会社、トヨタ自動車
株式会社、東京ガス株式会社、アサヒビール株式会社、京王電鉄株式会社、佐川急便株式会社、株式
会社ティムコ、株式会社トンボ、パナソニック株式会社、環境文化創造研究所、財団法人損保ジャパン
環境財団、財団法人一ツ橋文芸芸術振興会